

産保スタッフと人事部が連携して 治療前からフル復帰までサポート

株式会社福屋

1. 仕事を続けられる体制をつくる

治療と職業生活の両立支援の進展を探る本コーナー第2回は、事業場における事例として、百貨店『福屋』を営む広島市の(株)福屋の取り組みを紹介する。

『福屋』は、広島県初の百貨店として1929年に開店。1945年8月には広島に投下された原子爆弾により町とともに廃墟と化すが、翌年2月には部分的に営業を再開し、1953年6月に全館を復旧。「いつの時代においても、お客様の幸福に寄与し得る百貨店であり続けます」を企業理念に掲げ、2014年10月、創業85周年を迎えた。現在、八丁堀本店、広島駅前店をはじめ、広島県内外に12店舗を構える。

従業員数は約1,000人、その8割近くが女性であり、早くからワーク・ライフ・バランスの実現に注力し、労働時間の短縮や育児サークルの開催などに取り組んできて成果を上げていることでも知られる。

人事部の中下都貴子係長は「何かがあるから仕事を諦めるのではなく、何かがあっても退職しないでいられる体制を整える、そう考える社風です」と自社を語る。治療と職業生活の両立支援も、こうした中で取り組みが始まり、体制が固められてきた。

2. 相談窓口を開設

同社の治療と職業生活の両立支援は、産業保健スタッフ（以下、産保スタッフ）が「相談窓口」で従業員から相談を受けることから始まり、①相談者に寄り

添って面談を重ね、一人ひとりの状況に応じてきめ細かく支える、②産保スタッフと人事部が連携し、治療のための休職から職場復帰への準備、復職後の治療との両立や働き方への配慮などについて、罹患した従業員の意向を踏まえつつ、産業スタッフ・人事部・従業員の三者が一体となって最善の道を探りプランを立て、短縮勤務からフル復帰まで支える、③罹患した従業員の意向を尊重しながら、家族にも面談に加わってもらったり、産保スタッフが主治医から治療と職業生活の両立について配慮すべき点などを聞く機会を設けていることなどが特徴である。

こうした支援を行うようになったきっかけは、10年ほど前、当初はメンタルヘルスケアとして、看護師が常駐する従業員のための相談窓口を開設したことだった。従業員食堂などに相談窓口の利用を周知する掲示を行うと、徐々に相談者が増え、すると5年ほど前から、メンタルヘルスだけでなく、他の病気の相談も受けるようになり、次第に治療と職業生活の両立支援が大事な取り組みになっていった。初めは産保スタッフだけで取り組んでいたが、やがて人事部と連携するようになり、現在の体制になった。

3. 両立支援の大きな効果

福屋の産保スタッフは産業医4人、看護師3人、そして今年7月から加わった保健師の齊藤愛子さんの計8人が、本店と駅前店の保健室業務と相談窓口、他店舗の巡回に当たっている。



保健室での面談の様子(女性従業員とその配偶者の話を聞く吉本看護師(左)と後神人事次長)

現在の治療と職業生活の両立支援は、看護師・保健師4人と人事部から2人の計6人で取り組んでいることに加え、産業医も常時相談に応じている。

本店の保健室と相談窓口を担当する吉本奈美看護師は、月にのべ20～30人の従業員から相談を受けているという。なかには重い病に罹ったという相談もあり、これまで何人もの両立支援の力になってきた。「置かれた立場や状況はみな違いますから、その人に適した支援になるよう、細やかな対応をしていることが当社の支援のよい点だと思います。面談の回数は多いです。でも、雑談も多いんです。最初のうちは緊張されていますから、いろいろな話をしながら把握していきます。復職前には、ご本人の了解を得て、主治医に話を聞きに行くこともあります。これまで10回ほど行きましたが、先生方は快く応じてくださいます。今後ともいまのようにみんなで丁寧な支援を続けていきたいと思います」と吉本看護師は話す。

また、広島駅前店を担当する住岡香苗看護師も、多くの相談を受けて力になっている。「入院中などで面談ができない時期も、社内報を送るなどしてこちらから連絡するようにします。それが職場復帰への大きな勇気になるという従業員もいます。何らかのかたちでつながりを持ちながら支えていくことが大事だと感じています」と支援を通しての実感を語る。

こうした支援を行うようになってから、治療のために休職しても、ほとんどの従業員が戻ってきているという。福屋の産保スタッフとしてもっともキャ

リアの長い吉川厚子看護師は、「職場復帰にあたっては、人事・労務の理解と支えが必要です。この支援ができてきているのは、人事部との連携体制ができたからで、連携の必要性に気づき、動いていただき、会社の理解もあることが大きかったと感じています」と会社の理解と連携の重要性を強調。また、人事部の2人はこの支援のために心理相談員の資格を取得し、さらに勉強を重ねていて「頼もしいです」と吉川看護師。

この両立支援の取組みに尽力し、今もけん引している後神了太郎人事次長は、「産保スタッフと人事部が毎月会議を開き、チームとして取り組んできたことで会社の理解が深まった」と振り返る。

後神人事次長は、両立支援の面談に人事のスタッフとして入るとき、その従業員に「辞めないで会社においてね、復帰する気持ちがある限り支えますから」と声をかけ、会社の諸制度を説明し、また、復職への道筋を示し、職場の上司に状況を伝え、さらに復職後も産保スタッフとともに見守り続けている。中下人事係長も、本人が不安なく治療に専念できるようにと勉強を重ね、面談に臨んでいる。

これまで、がんに罹患した26人の支援を行い、病状などからやむなく退職した人もいるが、23人が復職した。後神人事次長は「復職した従業員がもし全員辞めていたらと思うとぞっとします。全員が大事な人材ですから。同じ人はいませんし、育てるとしたら20年かかります。復職後、責任者として頑張っている方もいますし、今度は支える側になりますといって自分の経験を周囲に伝えて協力してくれる方もいます」と取組みの効果を静かに語った。

今後も、産保スタッフと人事部の連携により親身に支援を続けながら、がん検診の受診向上を図る取組みをさらに厚くしていくことなどを検討している。

会社概要

株式会社福屋
事業内容：百貨店事業
設立：1929年
従業員：920人（2016年1月現在）
所在地：広島県広島市